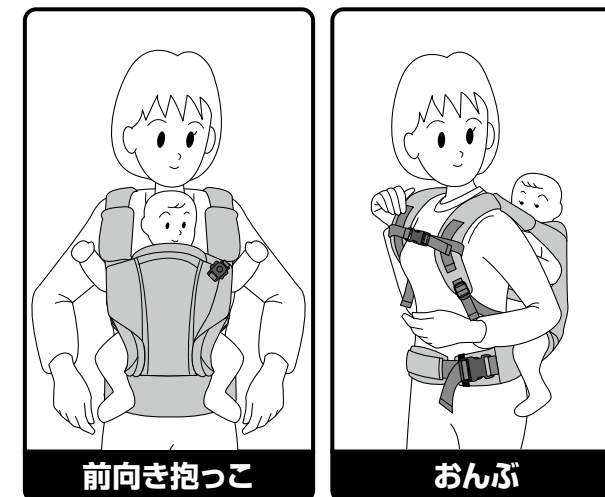
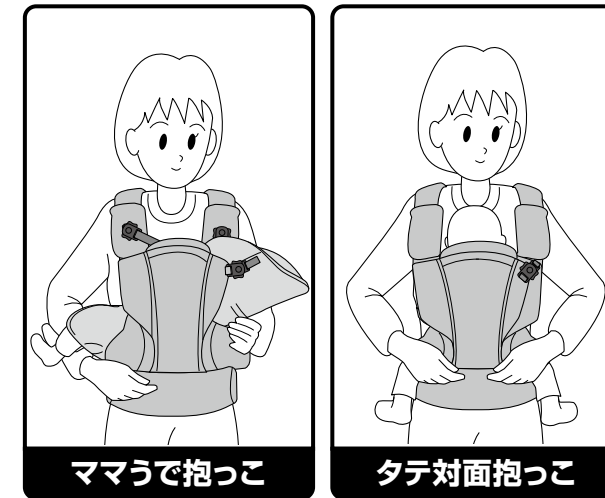


抱っこひも コアラ ウルトラメッシュ

取扱説明書／保証書

このたびは、アップリカ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品は新生児※ から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。

※ここでいう新生児とは、出生時に体重2.5kg以上かつ胎週数37週以上の乳児を指します。
この条件を満たさないお子さまへのご使用については医師にご相談ください。



・腰ベルトサイズ: 64~120cm。
(体型によって冬場など厚着の際には使用できない場合があります。)

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読み
のうえ正しくお使いください。
お読みになった後は、本書はいつも取り出せる
場所に必ず保管してください。
本書に記載されている以外の方法で使用しな
いでください。製品の機能が十分発揮できな
いだけでなく大変危険です。

もくじ

使用できるお子さまの月齢および体重について	1
装着状態と付属品の使用について	1
各部の名称	2
ホールディングパッドの装着方法	2
表示内容について	3
SGマーク制度について	3
点検について／お手入れについて	3
ご使用上の注意	4
バックルの使い方	5
脇ベルトアジャスター調節方法	5
ベルトの調節方法	5
よだれパッドの使い方	6
あしらくサポートの使い方	7
おやすみカーテンの使い方	7
ヘッドサポートの使い方	8
ママで抱っこ (新生児～首すわりまで(体重2.5kg～7kgまで))	9
首すわりまでのタテ対面抱っこ (生後14日以降かつ体重3.5kg以上～首すわりまで(体重7kgまで))	11
タテ対面抱っこ (首すわり以降(体重15kgまで))	13
前向き抱っこ (腰すわり以降(体重13kgまで))	15
おんぶ (腰すわり以降(体重15kgまで))	17
ソファなどを使用して装着	17
タテ対面抱っこから背中にもわして装着	18
Tips ~ママとお子さまの快適な抱っこのために~	
お子さまの位置や姿勢のポイント	19
Tips ~便利な抱っこひもの使い方~	
本体の折りたたみ方	20
あまったベルトのまとめ方	20
腰ベルトの調節	20
Q&A	21
保証とアフターサービスについて／MEMO	23
保証書	24
取扱説明書の便利な使い方	裏表紙

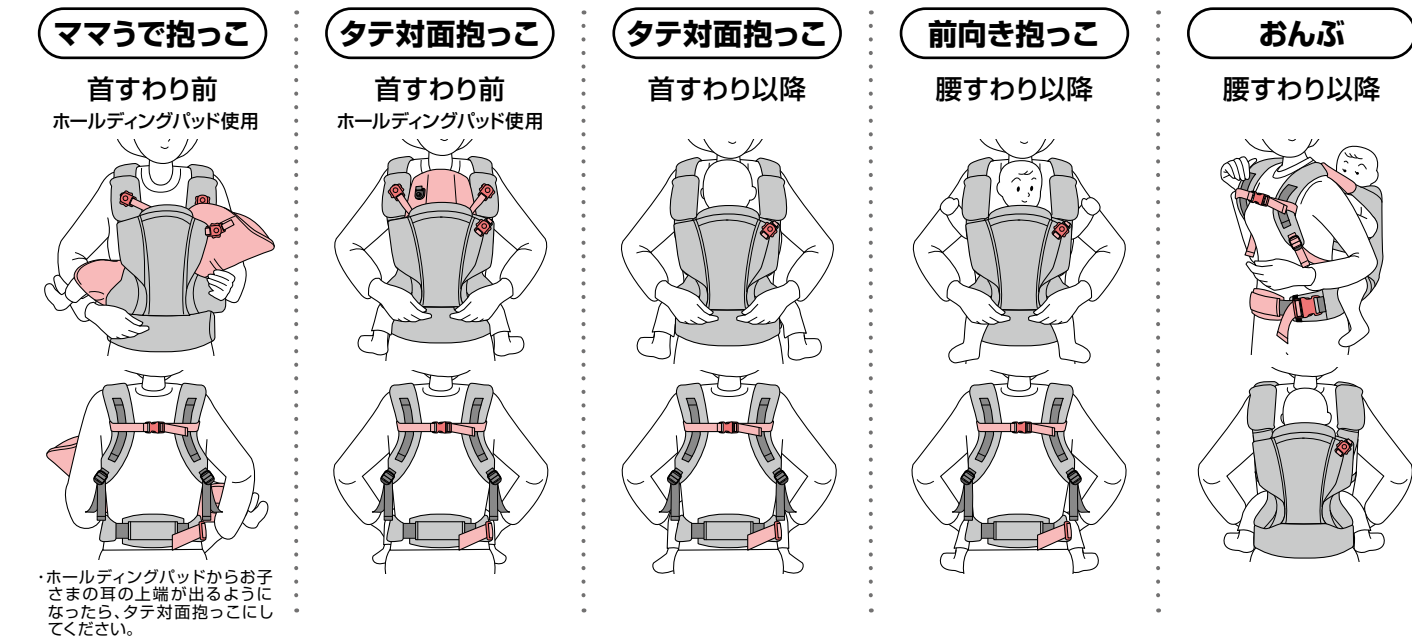
使用できるお子さまの月齢および体重について

・SGマーク被害者救済制度の対象は下記赤矢印でのご使用期間です。黒矢印でのご使用期間(タテ対面抱っこで生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えてから36カ月までのお子さまに使用)は対象となりません。SGマーク被害者救済制度につきましては本書P3を参照ください。

参考月齢	0カ月 14日	1カ月	(首すわり) 4カ月	(ひとり座り) 7カ月	24カ月	36カ月	体 重
ママで抱っこ	← 体重2.5kgから7kgまで ホールディングパッド使用 (新生児から首すわり頃まで) →						7kgまで
タテ対面抱っこ	← 体重7kgまで ホールディングパッド使用 (生後14日以降かつ体重3.5kg以上から首すわり頃まで) →		← 体重15kgまで ※タテ対面抱っこで生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えて36カ月まではSGマーク制度の対象外です。 →				15kgまで
前向き抱っこ					← 体重13kgまで →		13kgまで
おんぶ					← 体重15kgまで →		15kgまで

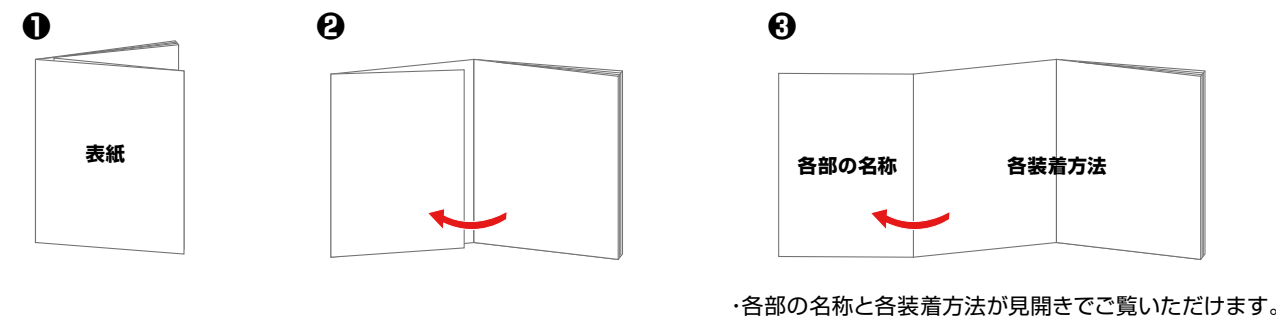
・お子さまの発育は個人差がありますので月齢表示は目安にしてください。
・お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。

装着状態と付属品の使用について



	必ず取り付けて 使用	必須ではないが 使用可能	× 使用不可	ママで抱っこ (首すわり前)	タテ対面抱っこ (首すわり前)	タテ対面抱っこ (首すわり以降)	前向き抱っこ (腰すわり以降)	おんぶ (腰すわり以降)
ホールディングパッド	◎	○	×	◎	◎	×	×	×
ヘッドサポート	×	○	×	×	×	○	×	○
よだれパッド	×	○	×	○	○	○	○	○
サポートベルト	×	○	○	×	○	○	○	◎
おやすみカーテン	×	○	○	×	○	○	×	○

〈取扱説明書の便利な使い方〉



・各部の名称と各装着方法が見開きでご覧いただけます。

●使い方の動画は下記でご覧いただけます。
取扱説明書をお読みいただいた後、動画をご覧ください。



・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
・製品の品質向上のため、予告なしに一部仕様変更する場合がありますので、あしからずご了承ください。

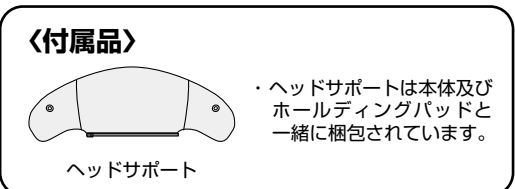
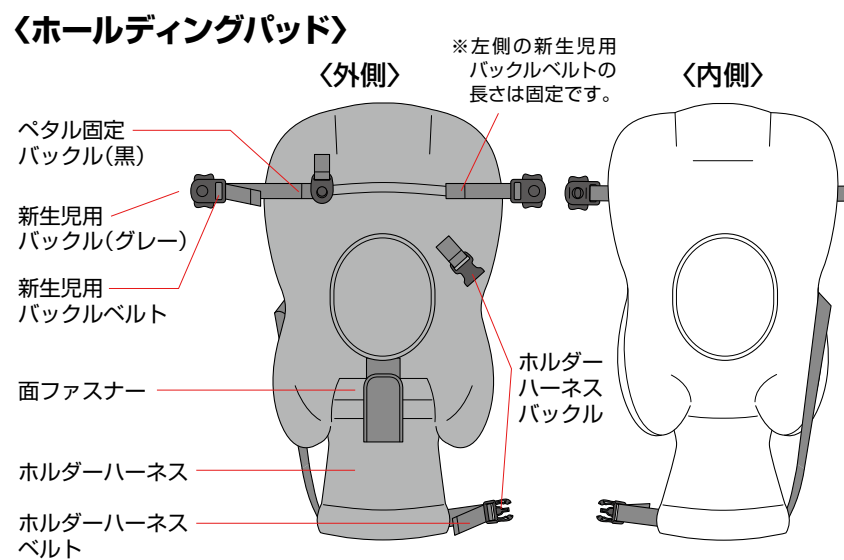
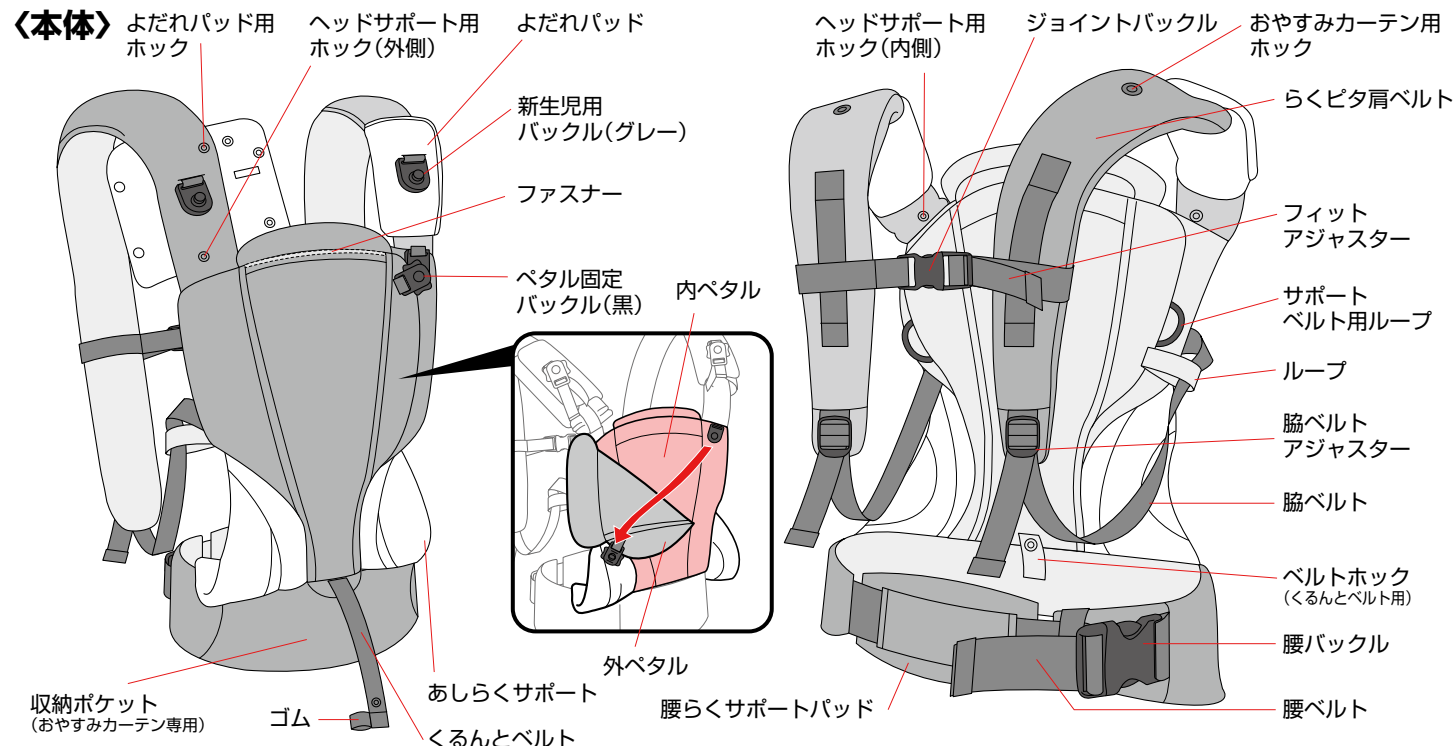
ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル
ベビー事業部 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814 携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担)TEL 0570-004-155
受付時間: AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

各部の名称

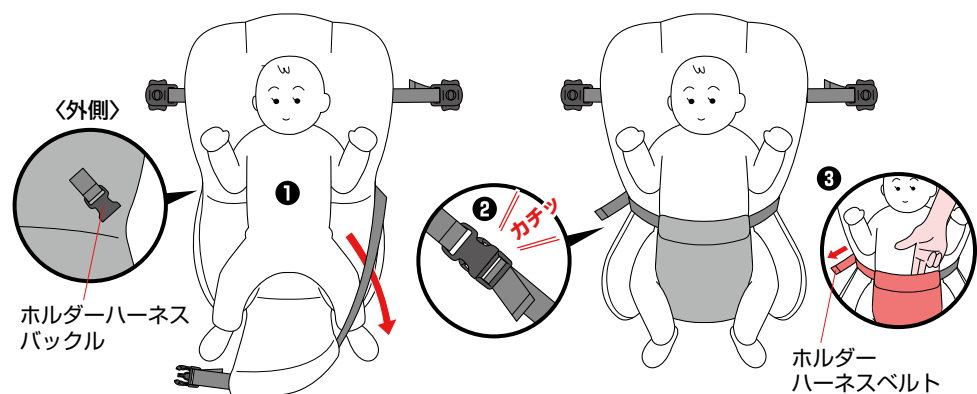
※品番・ロット番号は品質ラベル(腰ベルト裏側に縫い付け)に記載されています。

- ・この製品は外気浴や買い物などに使用するための一人用抱っこひもです。ご使用前に各部の名称をご確認ください。
- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかをご確認ください。
- ・不足や不良の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。



ホールディングパッドの装着方法

首がすわるまでは必ず使用



- ① 安全な場所にホールディングパッドを広げ、お子さまの左足をホルダーハーネスに通して寝かせる。
- ② ホルダーハーネスベルトのねじれがないように、ホルダーハーネスバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③ 大人の指が2~3本入る程度にホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P5「ベルトの調節方法」参照)

表示内容について

・「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

禁止図記号	表示の意味
	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。

SGマーク制度について

SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。

- ・ママで抱っこ：0カ月から4カ月(体重7kg)まで
- ・タテ対面抱っこ：1カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・前向き抱っこ：7カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・おんぶ：7カ月から36カ月(体重15kg)まで

〈賠償についてのご注意〉
 SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

※タテ対面抱っこの生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えて36カ月まではSGマーク制度の対象外です。

〈製品の欠陥によって事故が起きた場合〉
 事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズミノ輪2階 TEL 03-5808-3300

- ① 事故の原因となったSGマーク表示の製品 イ) 製品の名前、SGマーク番号 ロ) 製品の購入先、購入年月
- ② 事故発生の状況 イ) 事故発生年月日 ロ) 事故発生場所 ハ) 事故発生状況
- ③ 被害の状況 イ) 被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所 ロ) 被害の状況と程度

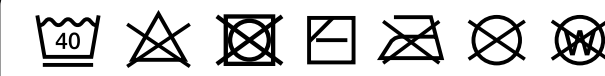
点検について

・ご使用前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、傷が無いことを確認してください。異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉
 ・湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉
本体、ホールディングパッド、おやすみカーテン、よだれパッド、サポートベルト、ヘッドサポート



※洗濯ネット使用、ねじり又は絞りは禁止

ご使用上の注意

ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。				
	バックル、腰バックル、ジョイントバックル、ホルダーハーネスバックル、ベタル固定バックル(黒)、新生児用バックル(グレー)をはずした状態で使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。	脇ベルト、腰ベルト、フィットアジャスター、ホルダーハーネスベルト、新生児用バックルベルトは必ずお子さまや使用者の身体に合わせて調節する。お子さまが落下するおそれがあります。	走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。お子さまが落下したり、発達に影響を及ぼすおそれがあります。	首がすわるまでは、ホールディングパッドなしでは使用しない。お子さまが落下したり、発達に影響を及ぼすおそれがあります。	ホールディングパッドにお子さまを乗せた状態で、ホルダーハーネスバックルをはずして指を入れて、けがをするおそれがあります。
	タテ対面抱っこ、おんぶでは、体重15kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。	前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。	ママで抱っこ以外は、外ベタルと内ベタルの間にお子さまを入れて使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。	授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。首すわり前のタテ対面抱っこでは、連続1時間以上使用しない。それ以外の抱っこでは連続2時間以上使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。	リュックサックなどと併用しない。バックルと干渉し、バックルがはずれてお子さまが落下しけがをするおそれがあります。

警告 ・誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気を付け、手で支える。また頭が下向きにならないように膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。お子さまが開口部から落下するおそれがあります。
- ・腰ベルトと使用者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- ・お子さまが眠った後、ヘッドサポート又はおやすみカーテンを使用して頭が後ろに反り返る場合は使用を中止する。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ベルトの先端の返し縫いをほどこいたり、切り落としたりしない。ベルトがはずれお子さまが落下するおそれがあります。
- ・バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまが落下したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・細い袋(パッケージ)はお子さまがかぶらないよう放置しない。窒息する可能性があります。
- ・生後4カ月未満のお子さまは、使用者の身体に強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまを使用者の身体に強く縛り付けた状態にしない。お子さまの頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの頭が強く使用者の胸について気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・首すわり前にママで抱っこをする際、ホールディングパッドからお子さまの耳の上端が出る状態で使用しない。お子さまの頭を支えられないおそれがあります。
- ・ホールディングパッドを使用する際は、必ずホルダーハーネスバックル、及び左右の新生児用バックル(グレー)をとめる。正しくバックルをとめないと落下するおそれがあります。
- ・ホールディングパッドは単体での使用や他の抱っこひもに使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・早産時や呼吸器疾患などがある場合は、生後14日以降からであっても、使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・面ファスナーは必ずとめた状態を確認し、ご使用ください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・本製品を改造(染色など)しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・バックルは使用していない時もはずしたままにしない。お子さまがバックルに指を入れて、けがをするおそれがあります。
- ・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・使用者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止する。使用者およびお子さまの体調を損なったり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ママで抱っこする時は、前傾姿勢時に使用者の体から離れた状態になりやすいため、お子さまを手で支える。お子さまの頭が下がると、思わぬ事故につながります。
- ・ヘッドサポートやおやすみカーテンをご使用の際は、必ずファスナーで固定する。本体とヘッドサポート・おやすみカーテンの間に隙間ができ、頭部が安定せず、思わぬ事故につながります。
- ・付属品の使用について、使用不可の期間は使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意 ・誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

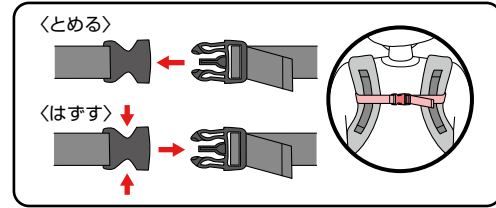
- ・装着時は足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には十分注意してください。
- ・暖房器具の近くなど高温になる場所に製品を放置しない。
- ・直射日光のある場所に製品を保管しない。変色や劣化が早まります。
- ・洗濯する際は面ファスナーをとめてください。面ファスナーや本製品の生地および他の洗濯物がいたむおそれがあります。
- ・その他、荷物などの運搬などや、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用をしない。

バックルの使い方

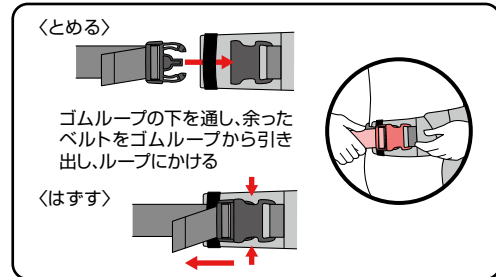
※バックルをとめた後は、ベルトを引っ張るなどしてバックルがはずれないことを確認してください。

- ・バックルをとめるときは「カチッ」と音がするまで差し込み、はずすときは → ← を押して解除する。
- ・バックルにゴムや生地が噛みこんでいないことを確認する。

ジョイントバックル

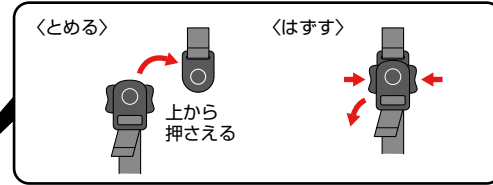


腰バックル

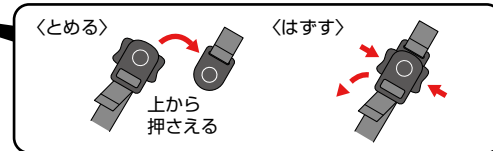


警告 お子さまが落下するおそれがあります。
 ・腰バックル、ホルダーハーネスバックル、新生児用バックル(グレー)、ペタル固定バックル(黒)をはずした状態で使用しない。
 ・腰バックルはゴムループに通さない状態で使用しない。

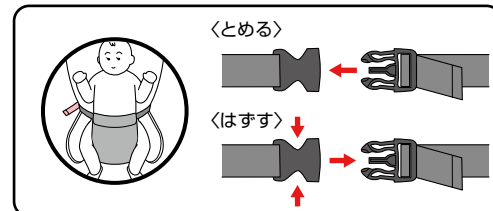
新生児用バックル(グレー)(左右)



ペタル固定バックル(黒)

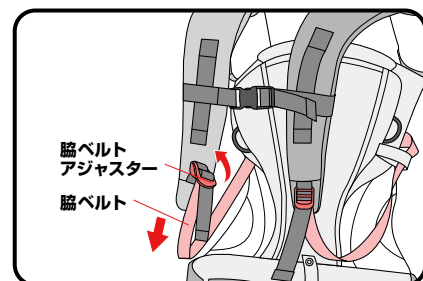


ホルダーハーネスバックル(左右)



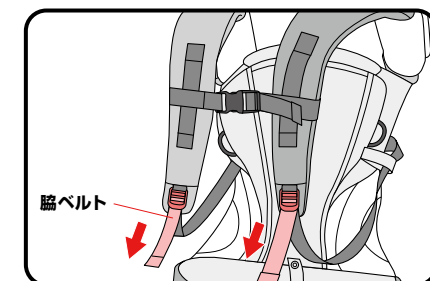
脇ベルトアジャスター調節方法

ゆるめる場合



・脇ベルトアジャスターを少しあげて脇ベルトをゆるめると、お子さまと使用者の間にスペースができます。

締める場合



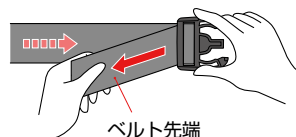
・脇ベルトを引っ張ると、お子さまは使用者に引き寄せられます。

警告 ・脇ベルトアジャスターを調節した後は必ず左右の長さが揃っているか確認してください。
 安定せず落下の可能性があります。

ベルトの調節方法

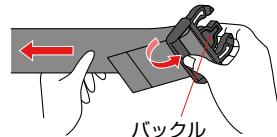
短くする時

・ベルトの先端を矢印の方向に引く。



長くする時

・バックルを立てて、ベルトを矢印の方向に引き戻す。



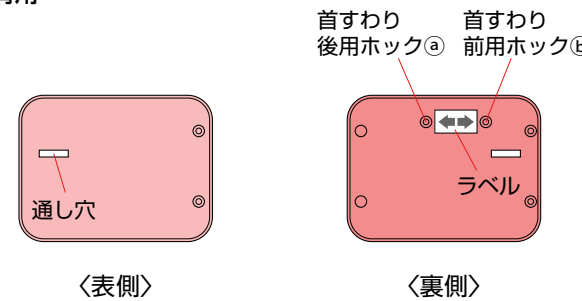
・各ベルトの調節方法は共通です。
 ・イラストは腰ベルトで説明しています。

警告 ・ベルトの長さを使用者に合わせて調節する。
 お子さまと使用者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

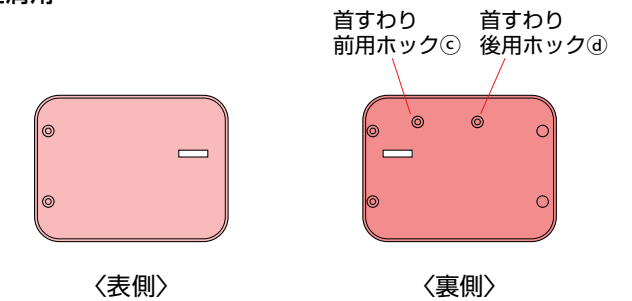
よだれパッドの使い方

〈よだれパッド〉よだれパッドには左右・上下があり、右肩用の裏側・上部にだけ目印のラベルがついています。

■右肩用

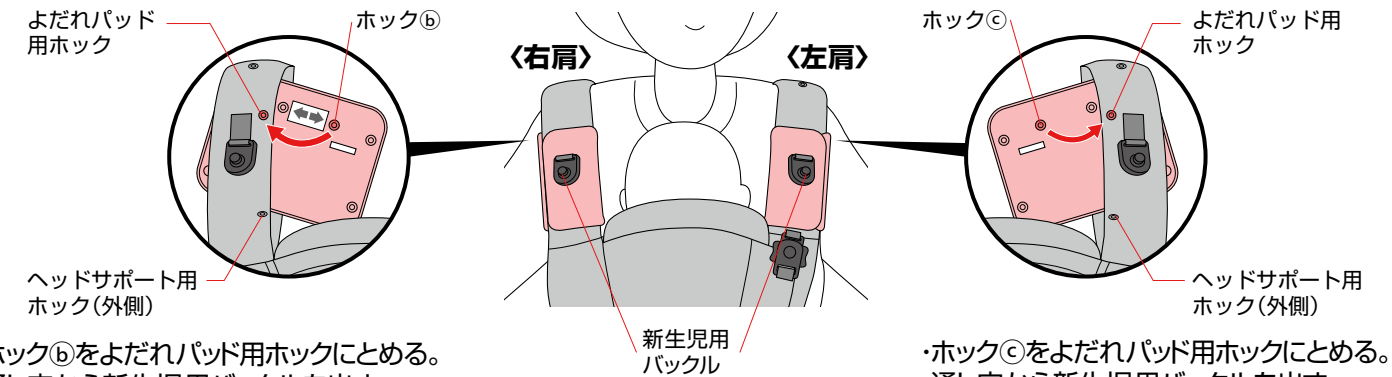


■左肩用



〈よだれパッドの取り付け方〉

①首すわり前 首すわり前はホールディングパッドの使用が必要です。よだれパッドの通し穴から新生児用バックルを出した状態でご使用ください。

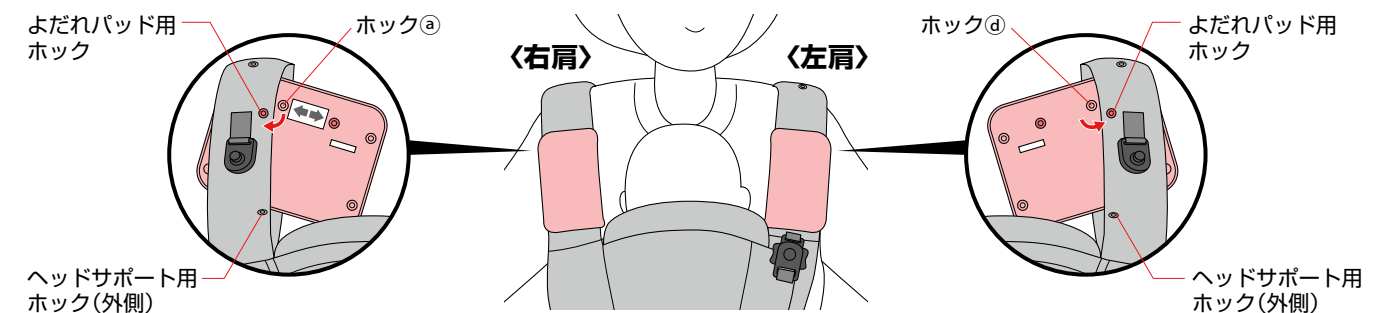


・ホックbをよだれパッド用ホックにとめる。
 ・通し穴から新生児用バックルを出す。
 ・らくピタ肩ベルトによだれパッドを巻きつける。
 ・両端のホックをとめる。

首すわり前のよだれパッド装着状態

・ホックcをよだれパッド用ホックにとめる。
 ・通し穴から新生児用バックルを出す。
 ・らくピタ肩ベルトによだれパッドを巻きつける。
 ・両端のホックをとめる。

②首すわり後 首すわり後は安全のため、新生児用バックルをよだれパッドで覆った状態でご使用ください。

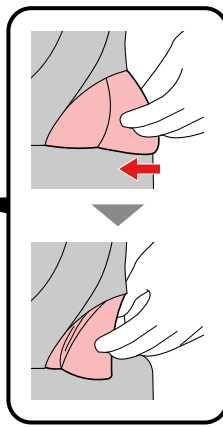
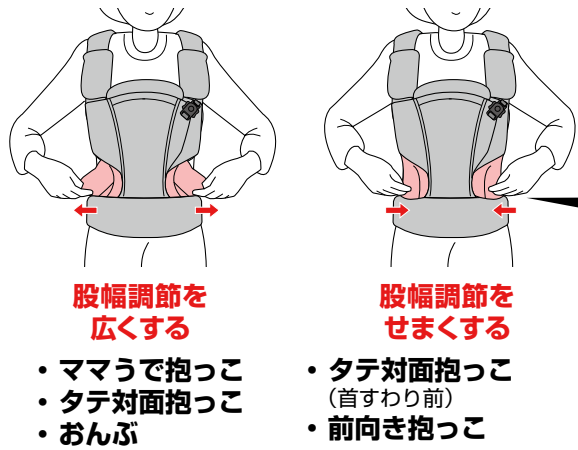


・ホックaをよだれパッド用ホックにとめる。
 ・らくピタ肩ベルトによだれパッドを巻きつける。
 ・両端のホックをとめる。(よだれパッドの合わせ目はらくピタ肩ベルトの裏側にくる。)

首すわり後のよだれパッド装着状態

・ホックdをよだれパッド用ホックにとめる。
 ・らくピタ肩ベルトによだれパッドを巻きつける。
 ・両端のホックをとめる。(よだれパッドの合わせ目はらくピタ肩ベルトの裏側にくる。)

あしらくサポートの使い方



・あしらくサポートは股幅を調節することで、タテ対面抱っこ時の自然なM字型姿勢をサポートします。
 ・開梱時の股幅は広い状態です。股幅調節をせまくして使う時は、あしらくサポートの外側を手でもち、内側のやわらかい生地を中へ押し込みます。
 ・前向き抱っこの際は必ず股幅調節をせまくし、お子さまの足が動かしやすいかどうかを確認してください。

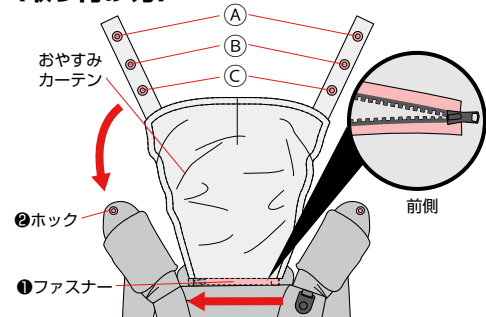
警告 前向き抱っこの際は、鏡に映して、股幅調節がせまくした状態になっているか、足が動かしやすい状態になっているかを確認する。お子さまが体調を損なうおそれがあります。

おやすみカーテンの使い方

※開梱時、おやすみカーテンは取扱説明書の袋の中に入っています。

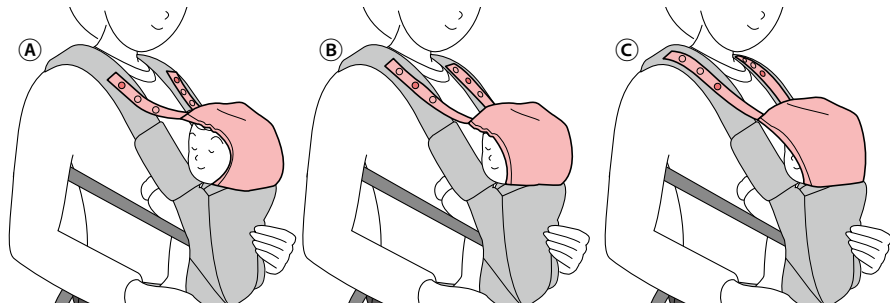
・ママうで抱っこ、前向き抱っこ時はおやすみカーテンをご使用できません。
 ・風よけや日差しよけにもなります。
 ・ヘッドサポートとの併用はできません。
 ・お子さまを乗せる前に、ファスナーでおやすみカーテンを取り付けておいてください。

〈取り付け方〉



①おやすみカーテンをファスナーで取り付ける。(ファスナーは引手を持って最後まで引く、ファスナーが開かないよう、引手を倒しきっちりとめる。)
 ②ホックをらくピタ肩ベルトにとめる。

〈調節方法〉



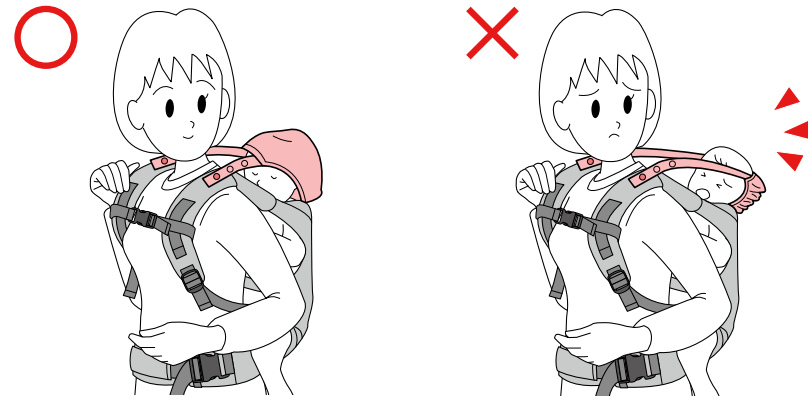
・お子さまの状態に合わせてA/B/Cいずれかで調節してください。
 ・お子さまの顔が隠れることがあります。お子さまの状態を確認するようにしてください。

〈使用しないときの収納〉



・おやすみカーテンは腰ベルトの前面にある専用の収納ポケットに収納できます。

〈おんぶのときの使用〉



・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがお子さまの頭を覆っていることを確認する。正しく出来ていない場合はもう一度調節しなおしてください。

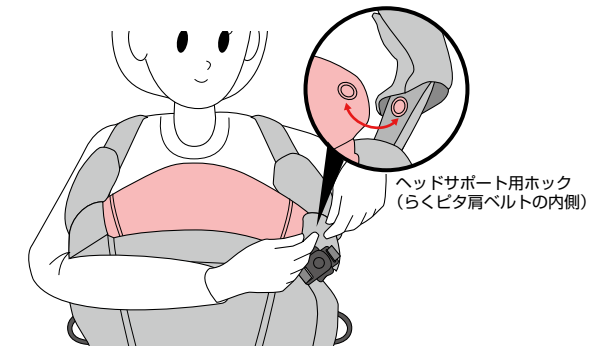
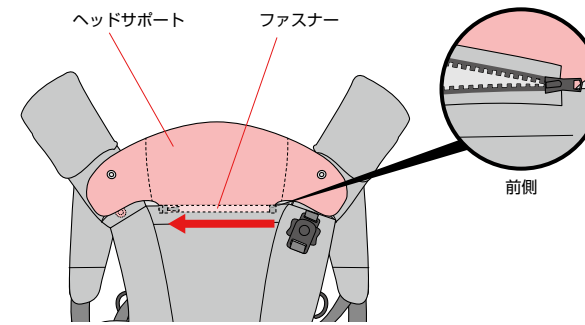
警告 おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
 ・お子さまが眠った後、おやすみカーテンを使用しても頭が後ろに反り返る場合は使用を中止する。思わぬ事故につながるおそれがあります。
 ・お子さまがおやすみカーテンを嫌がったり、ひどく体を後ろに反り返らせる場合は使用を中止する。ホックが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 ・収納ポケットは、おやすみカーテン専用です。尖ったものを入れない。お子さまが傷害を負う可能性があります。

ヘッドサポートの使い方

※開梱時、ヘッドサポートは本体及びホールディングパッドと一緒に梱包されています。

・ママうで抱っこ、タテ対面抱っこ(首座り前)、前向き抱っこ時はヘッドサポートをご使用できません。
 ・おやすみカーテンとの併用はできません。
 ・よだれパットの通し穴をらくピタ肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
 ・お子さまを乗せる前に、ファスナーでヘッドサポートを取り付けておいてください。

〈取り付け方〉

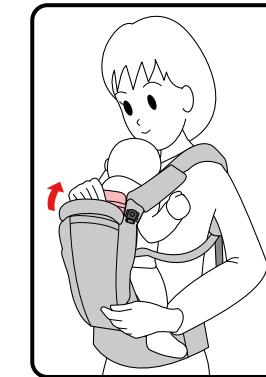


①ヘッドサポートをファスナーで取り付ける。(ファスナーは引手を持って最後まで引く、ファスナーが開かないよう、引手を倒しきっちりとめる。)

②ヘッドサポートのホック左右をらくピタ肩ベルトの内側のホックにとめる。

警告 ・お子さまがヘッドサポートを嫌がったり、ひどく体を後ろに反り返らせる場合は使用を中止する。ホックが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 ・ヘッドサポートをご使用の際は、必ずファスナーで固定する。本体とヘッドサポートの間に隙間ができ、頭部が安定せず、思わぬ事故につながります。
 ・外ペタルと内ペタルを重ねて使用する。お子さまの位置がずれて、バランスが崩れ思わぬ事故につながるおそれがあります。

〈タテ対面抱っこ時の使用〉

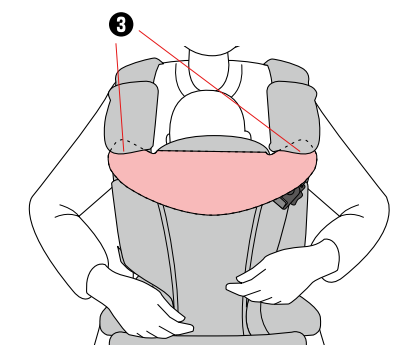
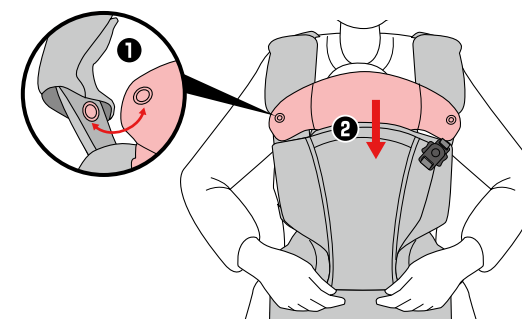


〈おんぶのときの使用〉



・お子さまのお尻を持ち上げ内ペタルを引っ張り上げ、外ペタルを重ねて使用する。
 ・鏡などに姿を映して、お子さまの頭の位置をときどき確認してください。

〈使用しないとき〉



①ヘッドサポートとして使用しないときは内側ホックを左右外します。
 ②ヘッドサポート左右を折り返す。

③ヘッドサポート外側のホックを左右にとめる。

・使用しないときは折り返してホックにとめるか、もしくは取扱説明書と一緒に保管ください。

- 首がおおよそ安定する頃までは、お子さまと目が合わせられるくママうで抱っこをおすすめします。
- 必ず、ホールディングパッドをご使用ください。
- 必ず、外ペタルと内ペタルの2枚の間にお子さまをいれてください。
- お子さまの頭は使用者の左側にきます。(反対側にはできません。)
- ホールディングパッドからお子さまの耳の上端がでるようになったら、タテ対面抱っこにしてください。

1 <事前準備>

よだれパッド

ジョイントバックル

フィットアジャスター

脇ベルト

左右10cm程度

ペタル固定バックル(黒)

- よだれパッドは通し穴がらくピタ肩ベルトの表側にくる向きで使用。(P6-①参照)
- ペタル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- フィットアジャスターは肩甲骨の下あたりで、らくピタ肩ベルトがすり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。
- 脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

2

カチッ

※腰骨より高い位置で、腰らくサポートパッドを背中を中心に持つ。

腰バックルをとめて腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトを引き出し、ループにかける。(P5参照)

8

ホールディングパッドの面ファスナーをはずし、脇ベルトを上から巻き込む

ループ

面ファスナー

脇ベルト

ループ位置は使用者側にあることを必ず確認!

お子さまを2枚のペタルの間に入れる

①お子さまを乗せたホールディングパッドを、脇ベルトの上に乗せるように、2つのペタルの間に入れる。②ホールディングパッドの外側にある面ファスナーで脇ベルトを外から巻き込み、固定する。

9

カチッ

カチッ

①使用者右肩の新生児用バックル(グレー)

②ペタル固定バックル(黒)をそれぞれとめる

3

確認

抱っこひもを頭からかぶる ※

ジョイントバックルがとまっていることを確認し、抱っこひもを頭からかぶる。

※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

4

ペタル固定バックル(黒)をはずす

左胸のペタル固定バックル(黒)をはずし、外ペタルをめくる。

5

左脇ベルトを締め、内ペタルを体に添わせ、2枚のペタルの間に空間をつくる

10

右脇ベルトがゆるい場合

右脇ベルトの長さを調節する

お子さまの頭がおしりより高い位置にあること、お子さまが使用者側に向いていること、内ペタルがイラストのような位置にきているかを確認する。

11

※お子さまを腕で自然に横抱っこする角度に。

ママうで抱っこの完成

前傾姿勢時に、使用者の体から離れた状態にならないようお子さまを手で支える。

6

※ホールディングパッドの装着方法はP2を参照。

カチッ

ベルトのぼす

面ファスナー

ホールディングパッドの新生児用ベルトをのぼす

安全な場所でお子さまをホールディングパッドに乗せ、ホルダーハーネスバックルをとめる。右側のベルトを最も長くしておく。

7

※お子さまの頭は使用者の左側に来ます。

カチッ

新生児用バックル(グレー)

ペタル固定バックル(黒)

※ママうで抱っこでは内ペタルのペタル固定バックル(黒)は使用しません。

新生児用バックル(グレー)をとめる

ホールディングパッドでホールドしたお子さまを、安全な台の上に横向きにせ、使用者の左肩の新生児用バックル(グレー)をとめる。

装着のチェックポイント

- ホールディングパッドのホルダーハーネスバックルがとまっている。
- 外ペタルと内ペタルの間にホールディングパッドが入っている。
- 新生児用バックル(グレー)はグレー色のバックルにとまっている。
- お子さまの位置が安定し、頭部が耳までパッドでおおわれている。
- あしらくサポートの股幅は広い状態になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ホールディングパッドお尻側の面ファスナーは脇ベルトを上から巻きとめている。
- フィットアジャスターの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- 腰ベルトが腰骨より高く、腰らくサポートパッドが背中の中にある。

警告

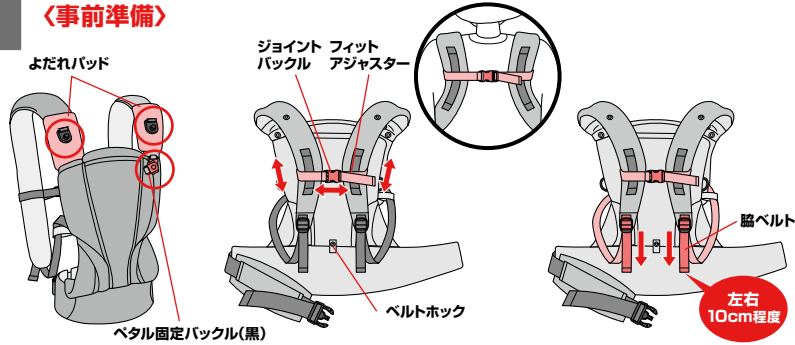
- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・抱っこする時や降ろす時は、安全な場所で低い姿勢で行う。
- ・前傾姿勢時に使用者の体から離れた状態になりやすいため、お子さまを手で支え、頭が下がらないように注意する。
- ・ホールディングパッドを必ず使用し、指定されたバックル類やファスナーを必ずとめる
- ・必ず2枚のペタルの間にお子さまを乗せたホールディングパッドを入れる
- ・寝返りのできるお子さまや、体重7kgを超えるお子さまに使用しない。
- 【お子さまが窒息するおそれがあります。】
- ・お子さまの顔を使用者の身体に強く押し当てた状態にしない。
- ・お子さまを使用者の身体に強く縛りつけた状態にしない。お子さまが頭部を動かす余裕があるように装着する。
- ・気道をふさいでいないか、お子さまの状態に注意しながら使用する。

首すわりまでのタテ対面抱っこ

生後14日以降かつ体重3.5kg以上～首すわりまで(体重7kgまで)
 ※生後14日以降1カ月まではSGマーク制度の対象外です。

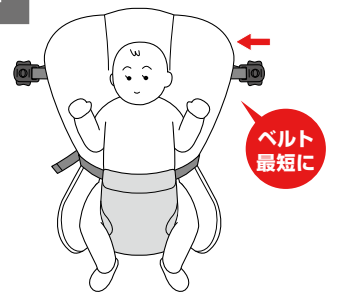
- ・お子さまがママうで抱っこを嫌がるようになったら、〈首すわりまでのタテ対面抱っこ〉をおすすめします。
- ・必ず、ホールディングパッドをご使用ください。
- ・お子さまの耳の上側までホールディングパッドがきいていること、頭の全周をサポートしていることを確認してください。
- ・必ず、内ベタルの内側にお子さまをいれてください。
- ・安全な台を使って装着してください。
- ・タテ対面抱っこをする際は、お子さまの首がすわるまで必ず向かい合う姿勢で装着してください。

1 〈事前準備〉



- ・よだれパッドは通し穴がらくピタ肩ベルトの表側にくる向きで使用。(P6-①参照)
- ・ベタル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・フィットアジャスターは肩甲骨の下あたりで、らくピタ肩ベルトがすり落ちない幅に調節する。
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

2



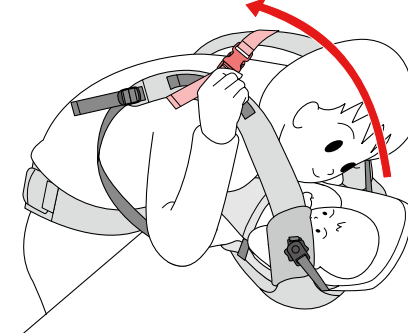
ホールディングパッドの新生児用ベルトの長さを短くする
 安全な場所でお子さまをホールディングパッドに乗せ、右側の新生児用ベルトの長さを最も短くする。

警告

- ・連続1時間以上使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・首すわりまでのタテ対面抱っこでは、ホールディングパッドを必ず使用し、指定されたバックルを必ずとめる。
- ・必ず内ベタルの内側にお子さまを乗せたホールディングパッドを入れる。
- ・覆返りのできるお子さまや、体重7kgを超えるお子さまに使用しない。
- ・お子さまを乗せ降ろす時は必ず安全な場所で行う。

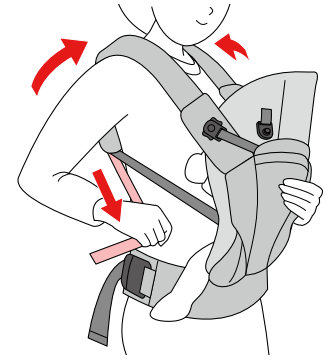
- ・身体を傾ける際は落下しないようにお子さまの身体を支え、手を離さない。
- ・着脱する際や身体を傾ける際は頭が下向きにならないように、膝を曲げて腰を落とす姿勢で行う。
- ・お子さまと使用者の間にすぎ間があきすぎたりしないように、ベルトの長さを使用者の身体に合わせて調節する。【お子さまが窒息するおそれがあります。】
- ・お子さまの顔を使用者の身体に強く押し当てた状態にしない。
- ・お子さまの顔の周りに十分な空間があり、頭部が動かせるように、脇ベルトの長さを調節する。

7



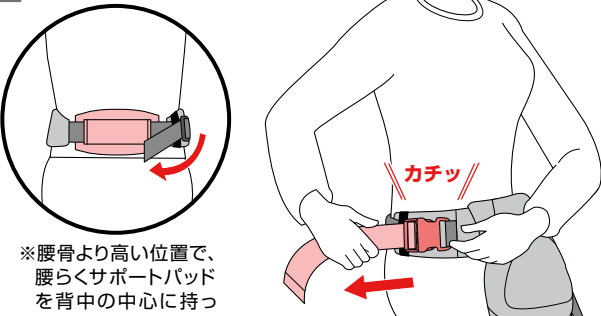
両腕を通し、抱っこひもを頭からかぶる ※
 フィットアジャスターを持ち、抱っこひもを頭をくぐらせる。
 ※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

8



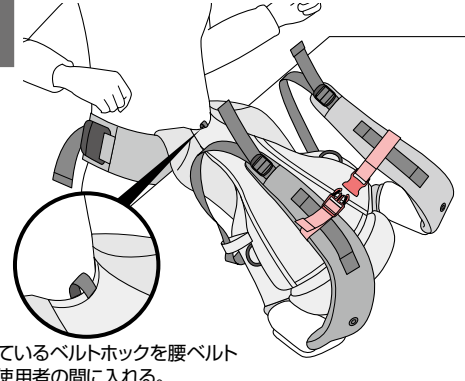
左右のらくピタ肩ベルトをかけて、長さを調節する
 脇ベルトの先端をひっぱり、長さを調節する

3



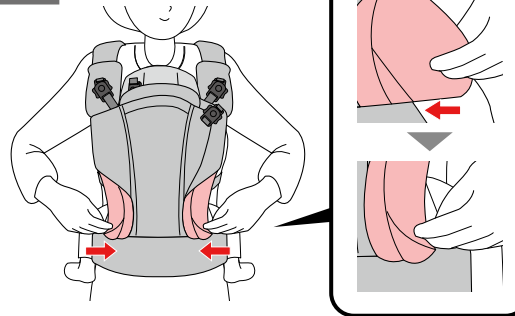
腰バックルをとめ腰ベルトの長さを調節する
 腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトを引き出し、ループにかける。(P5参照)

4



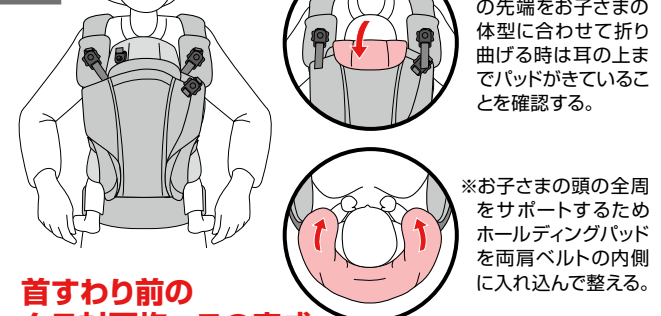
抱っこひもの本体部分を台に乗せ、広げる
 抱っこひも本体を安全な台の上に寄せ、ジョイントバックルをはずす。

9



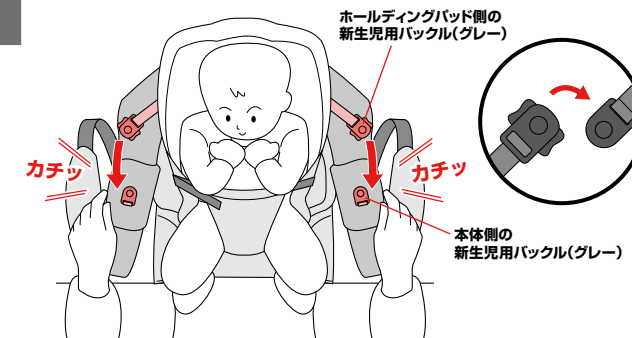
股幅調節をせまくする
 左右のあしらくサポートの外側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中に押し込む。

10



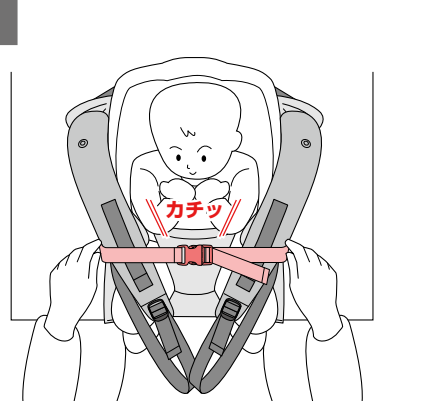
首すわり前のタテ対面抱っこの完成
 最後に外ベタル、内ベタルの両方を上に引っ張り、ホールディングパッドがしっかり下まで入っていることを確認してください。
 ※お子さまを降ろす際は、逆の手順で行ってください。

5



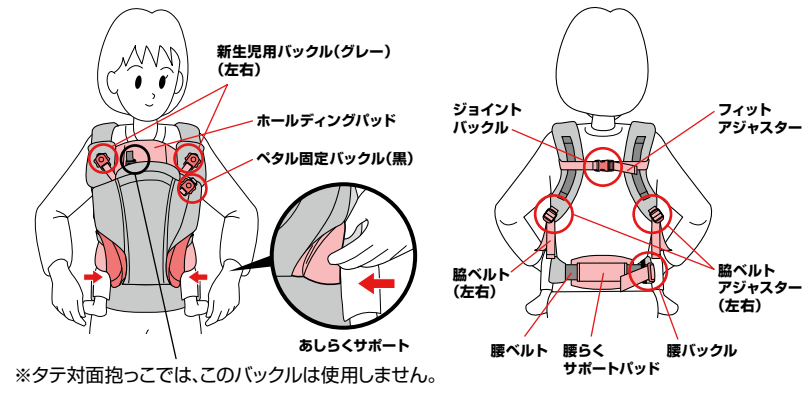
ホールディングパッドに包まれたお子さまを抱っこひも本体の上に乗せ、ホールディングパッド側の新生児用バックル(グレー)と本体側の新生児用バックル(グレー)をとめる

6



ジョイントバックルをとめる

装着のチェックポイント



※タテ対面抱っこでは、このバックルは使用しません。

- お子さまがホールディングパッドに包まれて、内ベタルの内側に入っている。
- ホールディングパッドのホルダーハーネスバックルがとまっている。
- 新生児用バックル(グレー)はグレー色のバックルにとめられている。
- よだれパッドから新生児用バックル(グレー)が外に出ている。
- お子さまの頭部、首まわりがパッドでしっかり支えられている。
- あしらくサポートの股幅はせまい状態になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- フィットアジャスターの高さが肩甲骨の下あたりにある。

タテ対面抱っこ

首すわり以降 (体重15kgまで)

・よだれパッドの通し穴をらくピタ肩ベルトの裏側にしてご使用ください。

1 <事前準備>

- ・よだれパッドは通し穴がらくピタ肩ベルトの裏側にくる向きで使用。(P6-②参照)
- ・ペタル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・フィットアジャスターは肩甲骨の下あたりで、らくピタ肩ベルトがすり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。(ジョイントバックルは手順3でとめることもできます。)
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

●サポートベルトを使用する場合は、P17 ①の事前準備をご参照ください

2

※腰より高い位置で、腰らくサポートパッドを背中を中心に持つ。

腰バックルをとめて 腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトを引き出し、ループにかける。(P5参照)

警告

- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- ・腰ベルトと使用者の間におさまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・鏡に映して、ペタル固定バックル(黒)がとまっているか、正しく装着されているかを確認する。
- ・必ず内ペタルの内側におさまを入れる。
- ・お子さまと使用者の間にすき間がありすぎたりしないように、ベルトの長さを使用者の身体に合わせて調節する。
- ・お子さまを乗せ降ろす時は必ず安全な場所で行う。
- 【お子さまが窒息するおそれがあります。】
- ・お子さまを使用者の身体に強く縛りつけた状態にしない。
- ・お子さまの顔の周りに十分な空間があり、頭部が動かせるように、脇ベルトの長さを調節する。

3

腰ベルトと使用者の間に 入れる

出ているベルトホックを腰ベルトと使用者の間に 入れる。

4

両腕を通し、抱っこひもを 頭からかぶる*

ジョイントバックルがとまっていることを確認し、抱っこひもを頭からかぶる。

※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

5

股幅調節を広くする

お子さまの足をしっかり支えるために左右のあしらくサポートを広げる。

6

ペタル固定バックル(黒)をはずす

左胸のペタル固定バックル(黒)をはずし、外ペタルをめくる。

7

右側のらくピタ肩ベルトをおろす

お子さまを入れやすいように右側のらくピタ肩ベルトを下げて、内ペタルと胸の空間をあける。

8

左右共に確認する

お子さまを内ペタルの内側に入れる

内ペタルを引っ張り上げながら、お子さまの肩が先にらくピタ肩ベルトの下に入るように入れる。その際、お子さまの左右の足が脇ベルトの下を通っていることを必ず確認する

●サポートベルトを使用する場合は、お子さまをペタルの内側に入れた後、サポートベルトのバックルをとめてください。(P17 ②参照)

9

右側のらくピタ肩ベルトを戻し、 ペタル固定バックル(黒)をとめる

10

持ち上げ真ん中でストンと落とす

左右の脇ベルトの長さを調節する

脇ベルトの先端をひっぱり、脇ベルトの長さを調節する。

お子さまのお尻を持ち上げ ペタルの中心に来るように 調節する

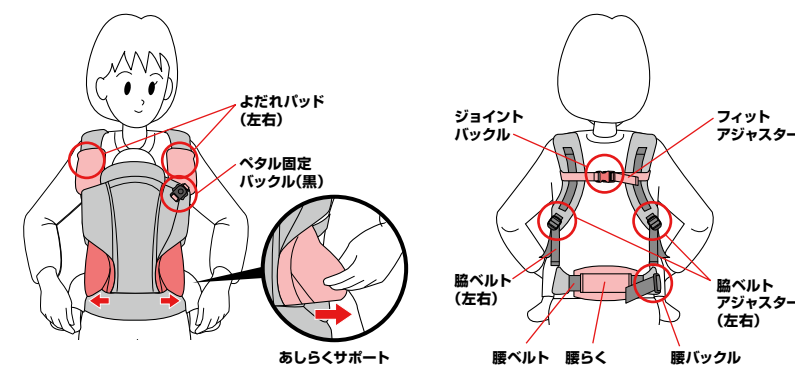
11

首すわり以降のタテ対面抱っこの完成

あしらくサポートが広がっているか確認する。

※お子さまを降ろす際は、⑨から逆の手順で行ってください。または、座った姿勢でおさまを片手で支えながら、背中中のジョイントバックルを先にはずし、お子さまを降ろすこともできます。その際、お子さまが落下しないように十分ご注意ください。

装着のチェックポイント



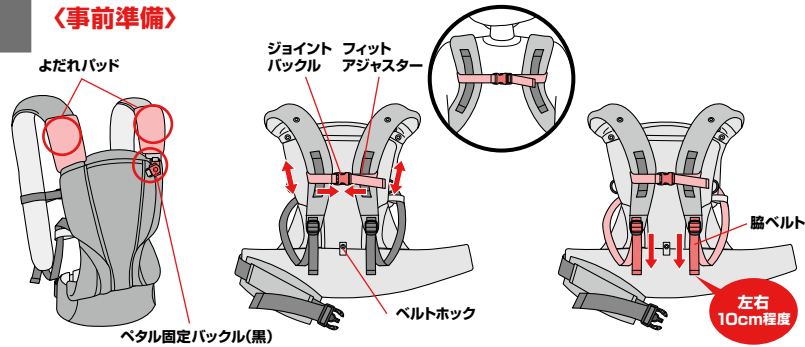
- お子さまが内ペタルと使用者の間に入っている。
- あしらくサポートの股幅が広い状態になっている。
- よだれパッドの通し穴がらくピタ肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- フィットアジャスターの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがペタルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

前向き抱っこ

腰すわり以降 (体重13kgまで)

・よだれパッドの通し穴をらくピタ肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
 ・前向き抱っこは、前に乗り出す姿勢になりがちでお子さまの身体に負担がかかりやすいため、お子さまの様子を確認しながらご使用ください。

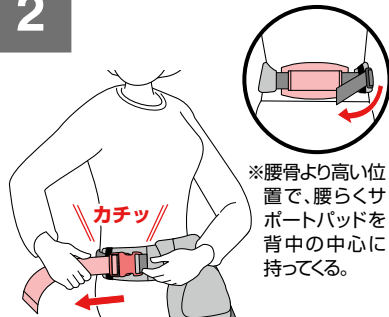
1 <事前準備>



・よだれパッドは通し穴がらくピタ肩ベルトの裏側にくる向きで使用。(P6参照)
 ・ベルト固定バックル(黒)がとまっているか確認。
 ・フィットアジャスターは肩甲骨の下あたりで、らくピタ肩ベルトがずり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。
 ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

●サポートベルトを使用する場合は、P17 1の事前準備をご参照ください。

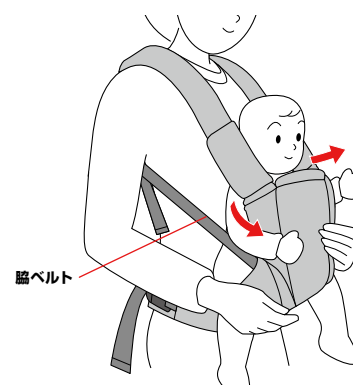
2



腰バックルをとめて腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトを引き出し、ループにかける。(P5参照)

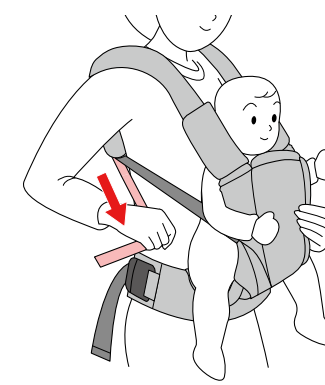
7



お子さまの腕を出す

お子さまの腕が脇ベルトの上を通っていること、お子さまが抱っこひもの中心に乗っていることを確認する。

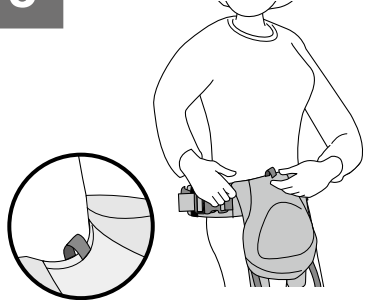
8



左右の脇ベルトの長さを調節する

脇ベルトの先端をひっぱり、ベルトの長さを調節する。

3



腰ベルトと使用者の間に inserる

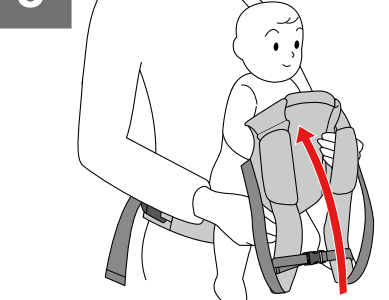
出ているベルトホックを腰ベルトと使用者の間に inserる。

4



お子さまを前向きに抱っこする

5

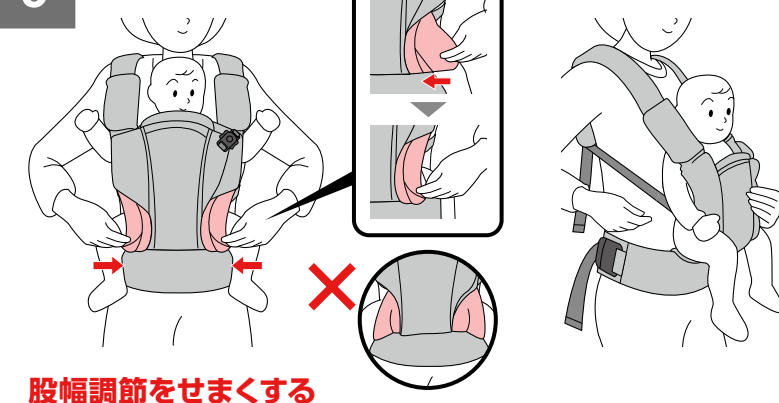


両ペタルで、お子さまの体をホールドする

お子さまを片手で支えながら、両ペタルを持ち上げて、お子さまの体をホールドする。

●サポートベルトを使用する場合は、お子さまの体をホールドした後にサポートベルトのバックルをとめてください。

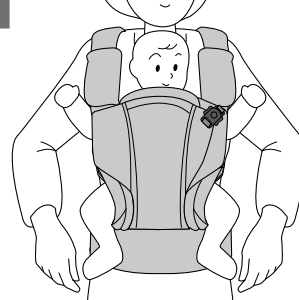
9



股幅調節をせまくする

左右のおしらくサポートの外側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中に押し込む。最後に、お子さまの両ももを持ち上げて、膝が前方に向くように座姿勢を調節する。

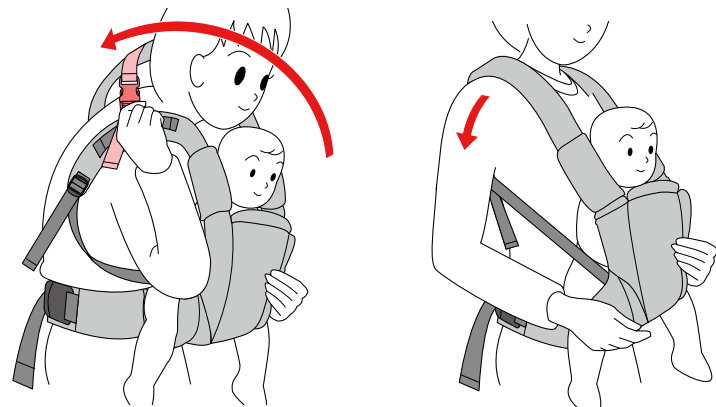
10



前向き抱っこの完成

※お子さまを降ろす際は、座った姿勢で行ってください。
 ①お子さまを片手で支えながら、片方のらくピタ肩ベルトを降ろす。
 ②背中ジョイントバックルをはずして、お子さまを降ろす。

6

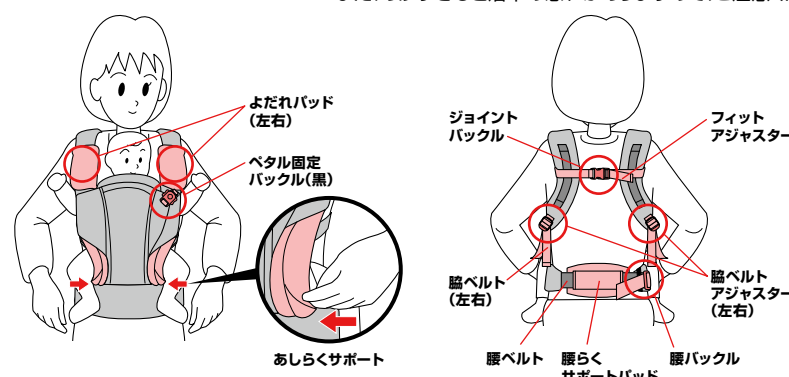


両腕を通し、抱っこひもを頭からかぶる

ジョイントバックルがとまっていることを確認してから、フィットアジャスターの中心部分を持ち、頭から、らくピタ肩ベルトをかぶり、左右の腕を通す。

装着のチェックポイント

※お子さまの口・鼻がベタルから上に出ない場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて調整してください。また、あげすぎると落下の恐れがありますので、ご注意ください。



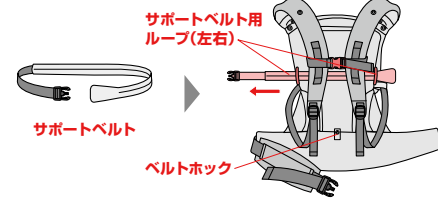
- お子さまが内ベタルと使用者の間に入っている。
- お子さまの両腕がらくピタ肩ベルトの下(脇ベルトの上)から出ている。
- あしらくサポートの股幅がせまい状態になっている。
- よだれパッドの通し穴がらくピタ肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- フィットアジャスターの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがベタルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

- ・よだれパッドの通し穴をらくピタ肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
- ・安全のために、必ずサポートベルトでお子さまをホールドしてください。

ソファなどを使用して装着

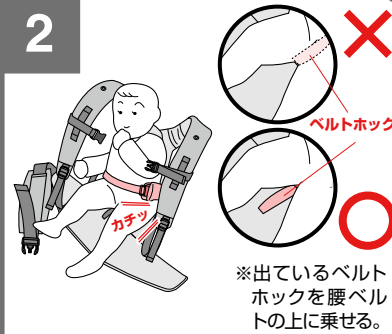
1 <事前準備>

- ・装着前にサポートベルトを必ず準備し、抱っこひも本体に取り付ける。



- ・内ベタルの左右のループに、サポートベルトの先端部が引っ掛かる状態まで通しておく。
- ・使用者のサイズに合わせてフィットアジャスター、脇ベルトの長さを調節する。(P11 参照)

2



抱っこひもを広げ お子さまを座らせる

安全な場所に抱っこひもを広げ、お子さまを座らせ、サポートベルトの長さをお子さまの寸法に調節し、バックルをとめる。

3



左右のらくピタ肩ベルトをかけ、お子さまを背負い、ジョイントバックルをとめる前かがみの姿勢で行う。

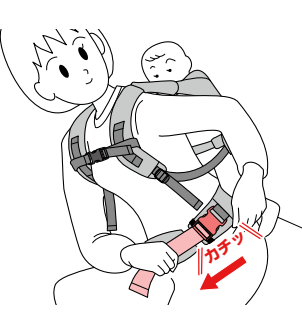
4



お子さまのお尻を片手で支えながら両方の脇ベルトを引っ張り調節するすわった姿勢のまま、前かがみの姿勢で行う。

5

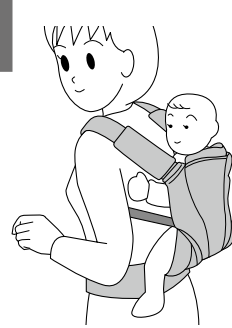
- ・お子さまの位置を上へあげ、お子さまと使用者の背中に手のひら1枚の空間をとる。



前かがみの姿勢で腰バックルをとめて各ベルトの長さを再度調節する

お子さまの足を腰ベルトではさんでいないことを確認する。

6

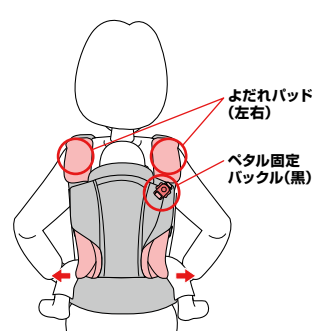
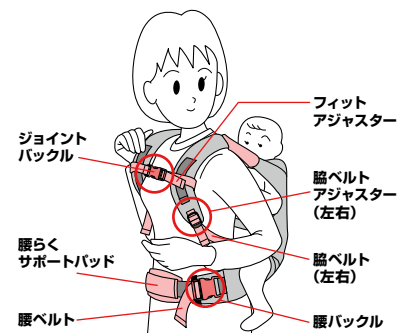


おんぶの完成

鏡などに映して、お子さまの手が脇ベルトの外に出ていないこと、お子さまのお尻が腰ベルトより高い位置にきていることを確認する。

※お子さまを降ろす際は、座った姿勢で逆の手順で行ってください。

装着のチェックポイント



- お子さまが内ベタルと使用者の間に入っている。
- お子さまの両腕がらくピタ肩ベルトの下(脇ベルトの上)から出ている。
- あしらくサポートの股幅が広い状態になっている。
- よだれパッドの通し穴がらくピタ肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- フィットアジャスターが苦しくない位置にきている。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがベタルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

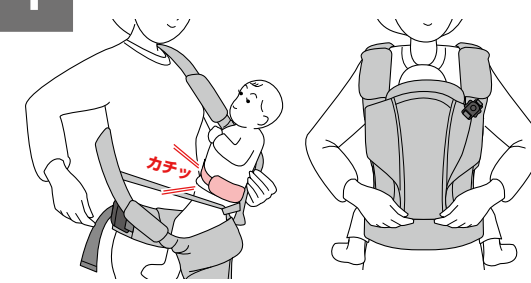
警告

- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
 - ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
 - ・鏡に映して、股幅調節が広げた状態になっているか、足が動かしやすい状態になっているか確認する。お子さまが体調を損なうおそれがあります。
 - ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
 - ・腰ベルトと使用者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
 - ・お子さまが眠って、後ろに反り返る場合は、おんぶの使用を中止してください。落下や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】**
- ・必ずサポートベルトを使用する。
 - ・お子さまを乗せ降ろすときは、必ず安全な場所で行い、お子さまの腰がすわるまでは、必ずソファなどの安全な台や介添えがある状態で装着する。
 - ・鏡に映して、バックルが止まっているか、正しく装着されているかを確認する。
 - ・必ず内ベタルの内側にお子さまを入れる。

タテ対面抱っこから背中にまわして装着

1

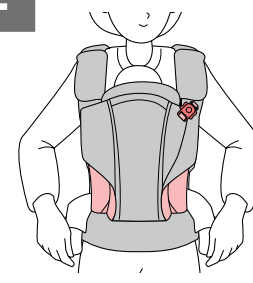
- ・サポートベルトを必ず事前に通しておく。



タテ対面抱っこを完成させる(P13~14参照)

タテ対面抱っこをする過程で、「右側のらくピタ肩ベルトを下げ、ベタル固定バックル(黒)をははず」際に、お子さまの腰にサポートベルトをまわしてバックルをとめる。お子さまを支えた状態で、左右の脇ベルトを少しゆるめる。

2



ベタル固定バックル(黒)とあしらくサポートを確認する

ベタル固定バックル(黒)がとまっていること、あしらくサポートが広がった状態であることを確認する。

3



右腕を右側のらくピタ肩ベルトから上に抜く

右腕をらくピタ肩ベルトの下からくぐらせ、そのまま腕を上へ抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

4



左腕を下へ抜く

左腕を左側のらくピタ肩ベルトの内側にくぐらせ、そのまま下に抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

5



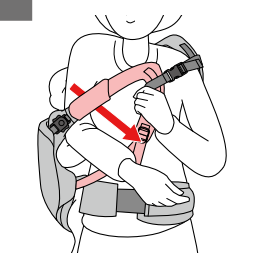
お子さまを背中に移動する

右手でお子さまを支え、左手で腰ベルトをもち、お子さまを体に添わせながら右腕の下にくぐらせ、背面にゆっくり移動させる。(必ずお子さまを支えながら行う。)

注意

- ・背面へお子さまを移動させるとき、左手で腰バックルをつかまない。バックルがはずれる危険があります。
- ・洋服やアクセサリーなどが引っ掛からないように注意する。

6



右腕を入れる

らくピタ肩ベルトをスライドさせて、肩の位置まで戻す。(らくピタ肩ベルトがねじれていないか、必ず確認する。)

7

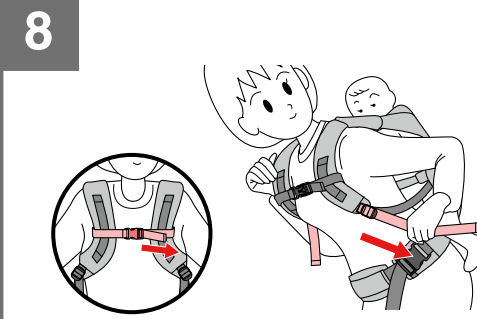


左腕を入れる

左腕を左側のらくピタ肩ベルトの内側にくぐらせ、そのまま下に抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

※出ているベルトホックを腰ベルトと装着者の間に入れる。(P17-2参照)

8



前かがみの姿勢で脇ベルト、フィットアジャスターの長さとお尻の高さを調節する

脇ベルトはベルトの先端を矢印の方向にひっぱり、フィットアジャスターは使用者の脇の下に位置付近に合わせる。

9



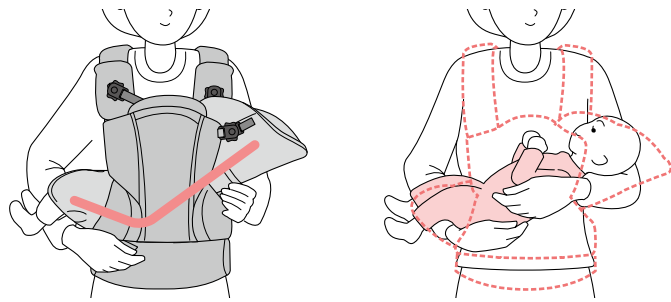
おんぶの完成

鏡などに映して、お子さまの手が脇ベルトの外に出ていないこと、お子さまのお尻が腰ベルトより高い位置にきていることを確認する。

※お子さまを降ろす際は、逆の手順で行ってください。

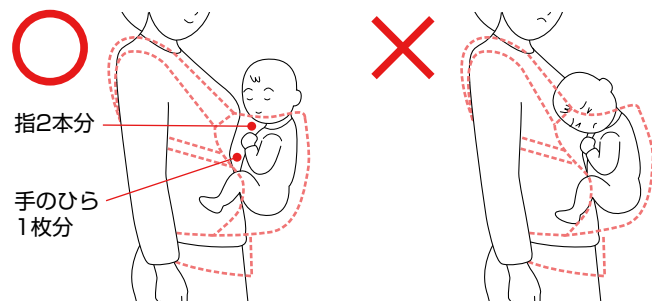
お子さまの位置や姿勢のポイント

〈ママ手で抱っこするとき〉



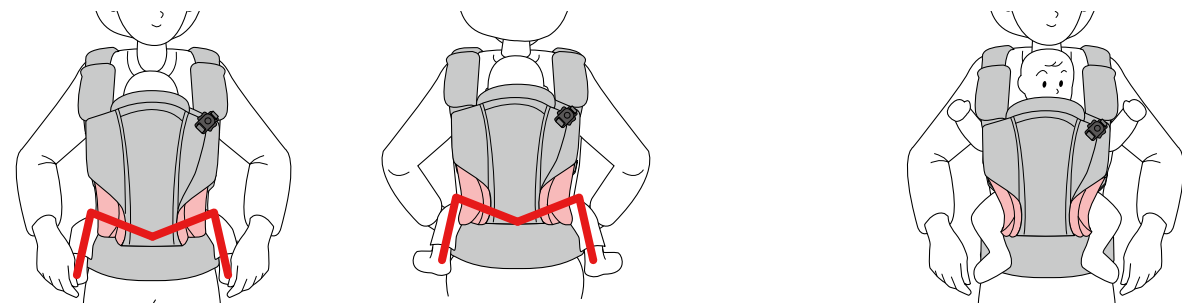
- ・ママ手で抱っこは、腕の中で自然に首すわり前のお子さまを抱っこするときの角度です。
- ・お子さまの頭と脚がお尻より高い位置になるように抱っこしてください。(最初に両脇ベルトを少しゆるめに調節しておいてください。)
- ・お子さまの顔や体が少し使用者側に向くようにしてください。

〈タテ対面抱っこするとき〉



- ・お子さまの呼吸を妨げる姿勢にならないよう、あごの下と胸の間には少なくとも大人の指2本程度のすき間を確保してください。
- ・お子さまの腹部と使用者の間は、手のひら1枚分(首が完全にすわったら、こぶしひとつ分)のすき間を確保してください。

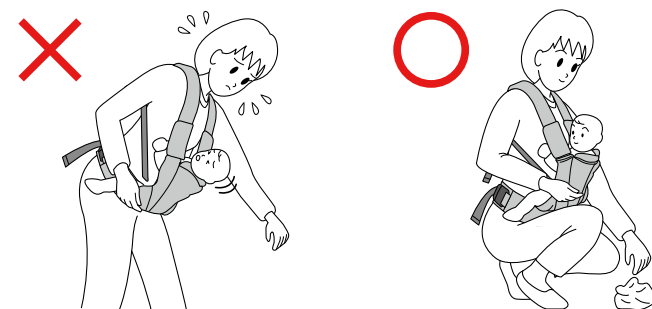
〈あしらくサポートを使用するとき〉



・タテ対面抱っこ、おんぶのとき、あしらくサポートの股幅を広げた状態で抱っこするとお子さまの足が自然なM字型になりやすくなります。

・前向き抱っこするとき、あしらくサポートの股幅をせまい状態で抱っこすると、お子さまが足を前にも自由に動かせるようになります。

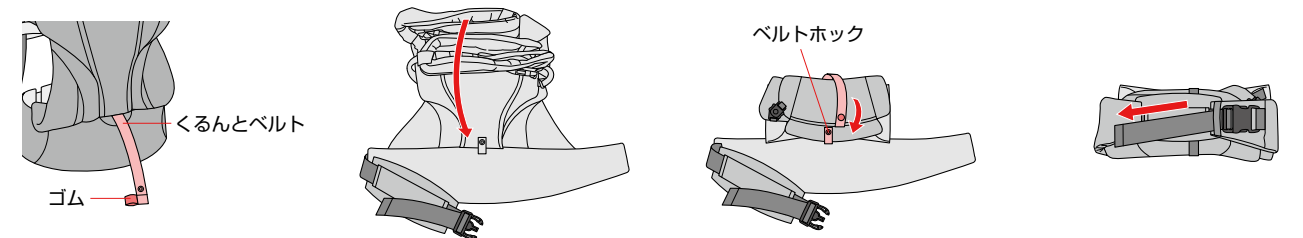
〈前かがみの姿勢になるとき〉



- ・大きく前かがみになる姿勢をとらないでください。かがむ際には、腰を曲げずにひざを曲げて、お子さまが落下しないように注意してください。
- ・体を傾けるときは、必ずお子さまを手でしっかり支えてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

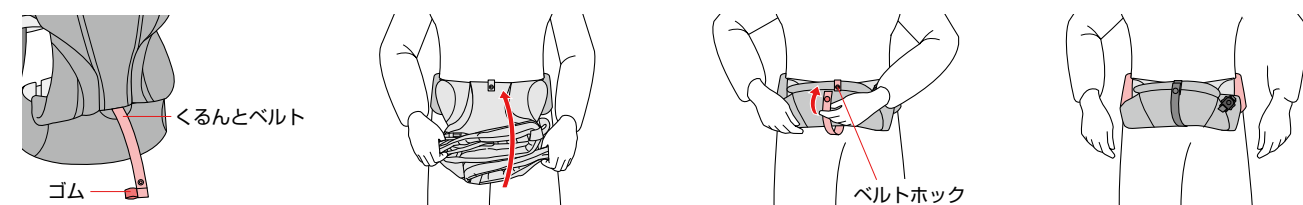
本体の折りたたみ方

〈本体のみで折りたたむ〉 ※ホールディングパッドを取り付けたまま、折りたたむことはできません。



- ① くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。
- ② 左右のらくピタ肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ③ くるんとベルトを巻き付け、ベルトホックにとめる。
- ④ 腰バックルをとめて、腰ベルトを調節する。

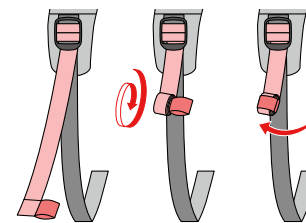
〈装着状態で折りたたむ〉



- ① くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。
- ② 左右のらくピタ肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ③ くるんとベルトを巻き付け、ベルトホックにとめる。
- ・腰ベルトを着用したままでもご使用いただけます。

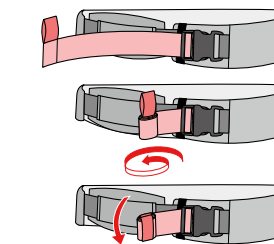
あまったベルトのまとめ方

〈脇ベルトアジャスター用ベルト〉



・余ったベルトを折りたたみ、先端のゴムでまとめる。

〈腰バックル用ベルト〉

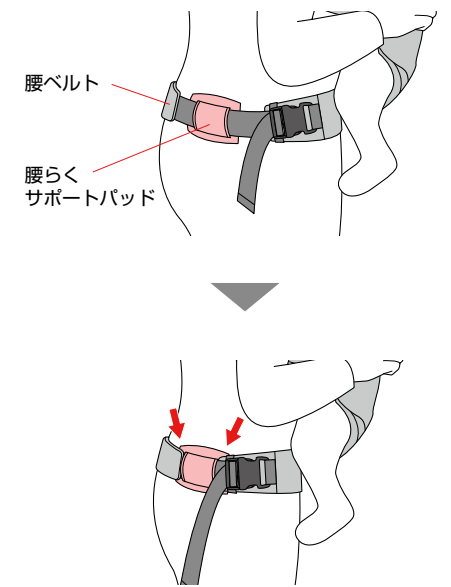


・余ったベルトを折りたたみ、先端のゴムでまとめる。



・あまったベルトは適度な長さにとめる。ベルトが巻き込まれたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

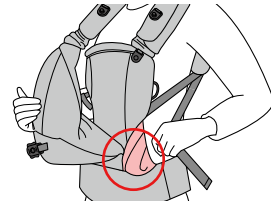
腰ベルトの調節



・腰ベルトを小さくしたい場合は、図のように腰らくサポートパッドと腰ベルトを重ね合わせて腰回り寸法を小さくすることができます。

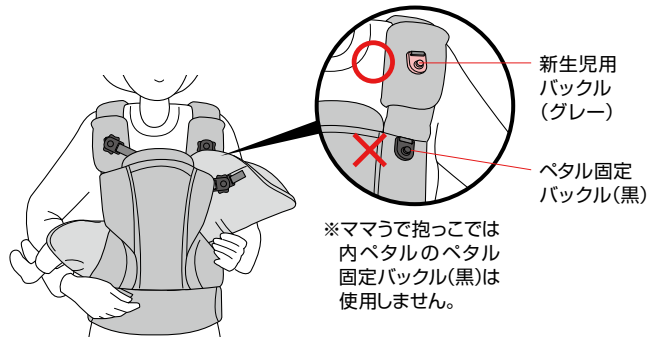
Q ママうで抱っこで、内ペタルを身体にフィットさせるように調節した際に、あしらくサポートがだぶつく状態になりますが。

A ママうで抱っこの構造上、ご使用者の身長や体格によって、生地がだぶつく状態になる場合がありますが、そのままご使用いただけます。



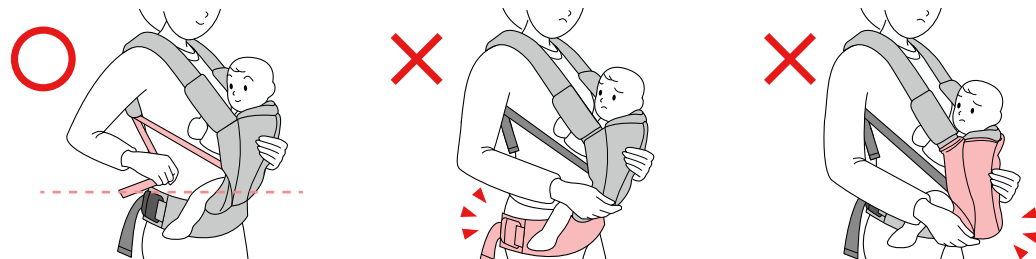
Q ママうで抱っこするとき、子どもが真横に寝た角度になってしまうのですが。

A 平らな状態でもお使いいただけますが、頭が下がりにすぎないように注意してください。新生児用バックル(グレー:上)とペタル固定バックル(黒:下)をつけ間違える、あるいは脇ベルト(P5参照)が緩んだ状態のままママうで抱っこをすると、お子さまの頭が低くなり平らに近い角度になってしまいます。ママうで抱っこの角度はこれらを確認した上で、左右の脇ベルトの長さを調節してください。



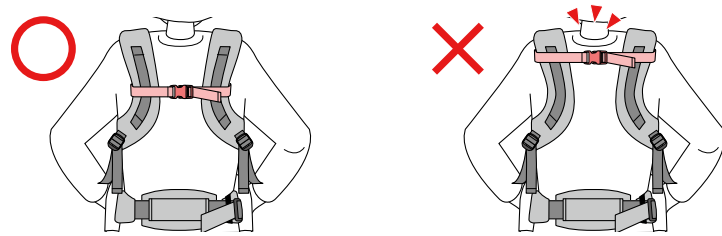
Q 腰ベルトはどのあたりに装着すればよいですか？

A 腰ベルトは、腰骨より少し高い位置に装着してください。その際、お子さまのお尻が腰ベルトより下がらないように脇ベルトの長さも調節してください。使用者やお子さまの身長・体格にもよりますが、腰ベルトの上面が、水平になるように調節してください。



Q タテ対面抱っこときに、肩や首のあたりに負担がかかるのですが。

A 腰ベルトがゆるんでいないか、フィットアジャスターの位置が高くなりすぎているか、確認してください。装着前にフィットアジャスターの位置を下記の図のような位置に調節してください。フィットアジャスターの位置、腰ベルトの位置によって肩と腰の負担のバランスが変わります。



Q 首すわり以降の赤ちゃんを横から入れようとするとき、うまく入れることができません。

A タテ対面抱っこときは、両方の脇ベルトを少しゆるめに調節してから装着すると、横からお子さまを入れるときに空間が作りやすいため、入れやすくなります。

Q タテ対面抱っこするとき、子どもの体が埋もれる感じになり、顔が見えない状態ですが、このまま使用していいですか？

A お子さまの身長に対して、抱っこひもの背部が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めウエストあたりに装着するようにしてください。

Q タテ対面抱っこするとき、子どもの肩が外に出してしまうのですが、大丈夫でしょうか？

A お子さまの肩はできるだけ外に出ない方が、より安全です。どうしても出てしまう場合は、バックルがはずれていないか、ベルトに緩みがないかを必ず確認した上でご使用ください。腰すわり前のお子さまの場合は上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

Q 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが。

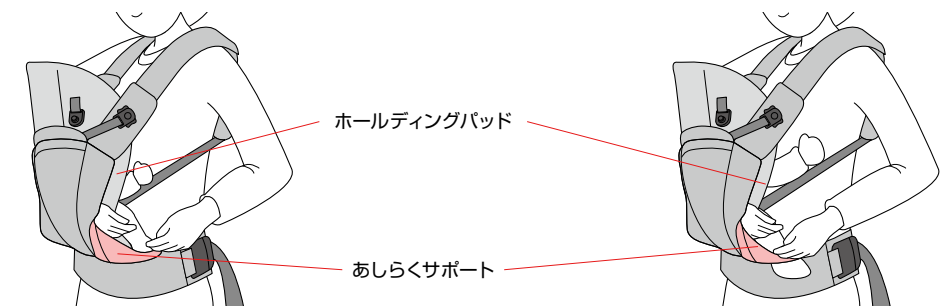
A お子さまのお尻が腰ベルトより下がっていたり、着衣や紙おむつなどが原因になっている場合があります。まずは装着状態をご確認ください。それでもお子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部をおおう服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもが直接触れないようにしてください。

Q 首すわり以降、よだれパッドの装着向きを変えずに使用してもよいですか？

A 安全にご使用いただくために、よだれパッドは必ず通し穴、ホック部分が裏側にくる状態でご使用ください。

Q ホールディングパッドを使用して、タテ対面抱っこ時に、あしらくサポートがうまく折りたたみません。

A ホールディングパッドの下に手を入れて、パッドと一緒に赤ちゃんのお尻を少し持ち上げるようにして、おりたたんでください。生後1~2カ月ごろの、足があしらくサポートから外に出ない時期は、ホールディングパッドが赤ちゃんの足をガードするので、あしらくサポートは折りたたみなくても大丈夫です。ただし、あしらくサポートから足が外に出る場合は、あしらくサポートを折りたたんでください。



Q あしらくサポートがうまく調節できないのですが。

A P7「あしらくサポートの使い方」を参照してください。あしらくサポートの外側(クッションの入っている部分)のやや上側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中へ押し込みます。

保証とアフターサービスについて

・保証期間中(購入日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。
ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〈電話連絡先〉

ベビー事業部 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合 (通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

受付時間：AM10：00～PM5：00 (土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

MEMO